

生命活動と社会＝歴史 循環と進化

浅野 良裕

先月は、「生命活動と意識の構造」として、生命活動・意識の膨大な領域の基本構造を検討してきました。全体構造は**重層的**であり、**多面的**ではありますが、**相似的な側面**を持っております。したがって**基本的なことが分かれば応用が利き、具体的な生活の隅々でいろいろな局面・問題に対処できるはず**です。

上が下になり下が上になり、表が裏になり裏が表になる。先頭が最後尾になり最後尾が先頭になり、正義が悪になり悪が正義になる。**良いと思っ**た**ことが悪いことになり悪いと思っ**た**ことが良いことになる**。何だか訳が分からないようですが、ある意味これがこの宇宙の現実であり、それらの価値判断や評価を超えたところに行かないと、この**現実と言われる世界で堂々巡り**をするばかりかもしれません。

こうした反転・転換がなぜ起きるのか？ 宇宙の進化とか人類の進化とは何なのか？ こうしたことが我々の生活・生命活動にどうかかわるのか？ これらについて考えていきたいと思ひます。

ビッグバンの**最初の光**から、素粒子、原子、分子へ、そして星雲、銀河、恒星、惑星等々。星雲や星々も意識を持った生命体と言えるかもしれませんが、その星々から地球のように生命を宿す星が生まれてきました。**海から始まった生物の歴史**は、バクテリア、単細胞生物、動物、植物と進化して行き人類が生まれました。

人の誕生の時、体内で生物の進化の歴史を辿るだけでなく、体内にもバクテリア等が生息し、陸上に生活しているとはいえその体内の70%近くは水分で、その割合も地球表面の海の割合とほぼ一致しています。

遺伝子レベル、原子レベルの異常、腸内細菌の異常が、体全体の病気の原因になった行くように、**過去の個体の歴史、人類の歴史、地球・宇宙の歴史は、現在の我々一人一人の生活レベルにまで影響**しています。

生物の進化の歴史においては、**個体の体の変化が種の変化・進化**として現れてきました。しかし現在の人類（ホモ・サピエンス）では体の基本構造が変化することなく、歴史を作ってきています。これは二足歩行により手が自由になること等により、外部の自然を加工し道具や衣服、住居、農耕、法律や社会システム等を創ってきました。そして文化、文明の発展の結果、現代では人間の周りにはあるものは、ほとんど**人間が手を加えたもの**になってきています。水や空気さえも。

しかし自然の法則はその背後で脈々と流れておりそれを超えることはできません。

人は体内から出るときに、**過去の記憶をすっかり忘れて**出てきました。それと同じように、個人として教育され成長する中で**過去の人類の歴史も**ほとんど知らないで生きてきました。日常生活は通常は今していることの意味を知らなくても過ごせるからです。

そしてこの循環がうまく回らなくなった時、過去に見過ごしてきた課題が現れ、**新しい次元へ進化**するか**衰退**していきます。スムーズに進化できるかどうかは**意識の広さと深さ**にかかっているのではないのでしょうか。